

特集 子育てを見守る・支える

ずっと子育てを見守り
支えています

子育ては出産してからではなく、妊娠した時から始まります。

保健センターでは、妊娠の届出を受け、母子健康手帳の交付から始まり、まずは妊婦健康診査やマタニティ教室などを通して、妊娠中からお母さんを見守ります。

そして、赤ちゃんが生まれてからは、乳幼児健康診査のほかにも、赤ちゃんとお母さんを訪問したり、乳幼児の発育や栄養に関する相談を受けたり、継続してお母さんと赤ちゃんを支えています。

また、離乳食教室では他のお母さんとも出会えます。

そのような場で情報を共有することで、不安な気持ちが落ち着くこともあるでしょう。保健センター以外でも子育てについての相談に際したり、年間を通じて教室を開催しています。詳しくは、市ホームページの情報をご覧ください。



▲読み取ると市ホームページの子育てページが表示されます。

子育てスタート!
妊娠したら

母子健康手帳の交付



妊婦健康診査（公費で14回助成）



パパ・ママ向けの教室

マタニティ教室

妊娠・出産・子育てについてさまざまな情報提供をしています。（土曜日にも行っています。）お父さんもぜひ参加してください。

マタニティごはん♡赤ちゃんごはんレッスン

妊娠中の食事のポイントや、離乳食についてのお話をします。調理実習も実施しています。

出産したら

新生児・産婦訪問指導

新生児・産婦訪問指導

保健師・助産師が赤ちゃんとお母さんを訪問します。赤ちゃん・お母さんの体調や、子育てについてお気軽にご相談ください。

乳幼児健康診査（4カ月・1歳6カ月・3歳）



乳幼児健康診査

各成長段階において、発育状況の確認と、疾病の早期発見・子育て支援を目的として行っています。

子育て支援センター

市内に16カ所あり、さまざまな事業を行っています。詳しくは28・29ページをご覧ください。

幼稚園・保育園・学校へ



子育てを見守る・支える

深谷市だけでなく、全国的に少子化が問題となっています。しかし、安心して子どもを育てられる環境がなければお父さん・お母さんも心配です。安心して子育てをするには、たくさんの人の支援が必要です。

子どもはかわいいけど、子育ては不安がいっぱい

親は子どもが生まれしてきた時、喜ぶと同時に、「本当に自分たちに育てられるのだろうか?」「不安になることもあると思います。」

また、「子育てには正解はない」とは言いますが、「自分たちのしていることはこれで大丈夫なのか」、「子どもはかわいい。けれど、子育てって楽しい?」「なんて、とてもじゃないけど思えない!」「...そんな風に思うこともあるのではなななでしょうか。」

一人で悩まないで。支える人がいます。

でもそれは、あなただけではありません。決して一人で悩まないでください。

市では、妊娠から出産、そしてその後もお父さん・お母さんが安心して子育てできるようにさまざまな支援を行っています。

今回の特集では、子育てを見守る・支えるというテーマで、安心して子どもを育てるために市が行っている支援をご紹介します。

特集 子育てを見守る・支える

深谷市独自の子育て支援

親世帯近くへの
住み替えを応援

三世代同居・近居支援

問い合わせ こども青少年課(☎574-6646)
子育て中の世帯が、市内に住む親世帯の近くに住み替える(同居や親世帯と同じ小学校区内に住む)場合に、引っ越し費用の2分の1(上限=市内5万円、市外10万円)を助成します。

主な申請要件

- 小学生以下の子ども(出産予定含む)が同居している
- 新たに親世帯と同居または近居となる
- 住み替え後の住宅に自ら居住する
- 住み替え後の住宅を所有する(親世帯の所有も対象)
- 住み替え後に自治会に加入する意思がある
- 年度内に住み替えが完了する
- 他の公的制度による助成などを受けていない
- 住民登録している市区町村の税を滞納していない

申し込み(先着順) 引っ越しの前にこども青少年課へ。申請書類など詳しくは、市ホームページまたは直接お問い合わせください。

軽減対象の
条件を撤廃

第3子以降
保育料無料化

問い合わせ 保育課(☎574-8648)
第3子以降の全ての子どもの保育料を無料にし、多子世帯の経済的負担を軽くします。

対象 次の全ての条件を満たす市民

- 認可保育園、幼稚園、認定こども園、小規模保育室に在園する子
- 上記の子と生計を同一にする兄または姉が2人以上いる

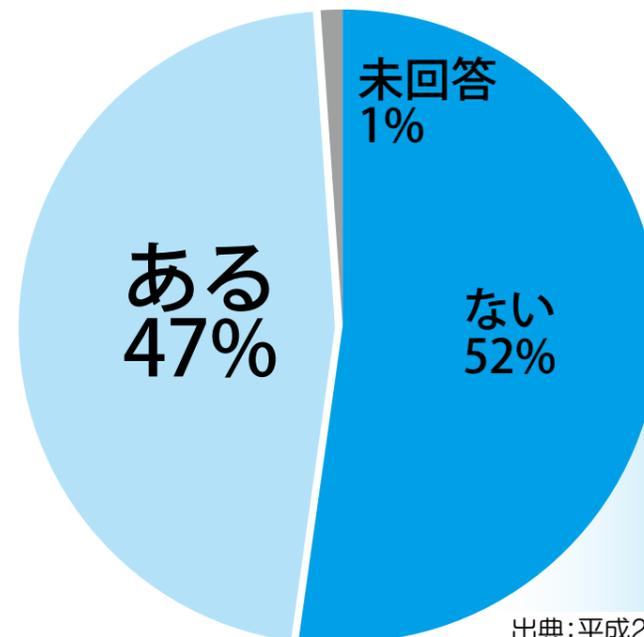
申し込み ●年度内に対象となる子の保護者が保育課に申請。申請書は、保育課および市内保育園のほか、市ホームページで入手できます。



みんなが育てる

市では、子育て中のかたに向けてもさまざまな支援を行っています。例えば、保健センターと家庭児童相談室では、それぞれ子育てに関する相談にも応じています。また、今年度から新たに深谷市独自の子育て支援事業が始まりました。

【お母さんになる方へのアンケート】
Q. 妊娠後、困っていること・気になっていることはありますか？



どんなことに困っていますか？

- 家事や仕事について
- 経済的な面について
- 子育てについて
- 心身のことについて
- 家族との関係について

など

出典：平成27年度妊娠届出時のアンケート調査より

一人で悩まず、
なんでも相談してください。

「子育てには悩みがつきものです。子育てに追いつめられる前に、ささいなことでも相談してくださいね。」こう語るのは、市保健センター・保健師の石川さんです。

上の表からもわかるとおり、妊娠した段階で、約半数のお母さんが、今後の子育てや体調のことで困ったことがあると答えています。実際に赤ちゃんが生まれてきたら、さらに困ったり不安になることも増えてしまう。核家族化が進み、周囲にサポートしてくれる家族がいらないお父さん・お母さんも増えていきます。そこで市では、子育てに行き詰まらないよう相談窓口を設けています。

子育てに関する相談窓口

- 保健センター
- こども青少年課
- 子育て支援センター
- 家庭児童相談室

※詳しくは25ページから29ページをご覧ください。

「子育ては一人でするものではなく、周囲のサポートがあって成り立つもの。相談するのが恥ずかしいと思わず、家族に話をすると、なんでも気軽に相談してほしいですね。」と語る、市保健センター・保健師の石川さん

育児の味方!!
家庭児童相談員

市の家庭児童相談室でもさまざまな相談に応じています。今回、相談員さんにお話を伺いました。

—何歳くらいのお子さんについての相談を受けていますか？—
「主に3歳児から15歳までのお子さんについて相談を受けています。」

—どんな相談が多いですか？—
「お父さんの性格や癡言などに関する相談が多いように感じます。特に第一子を育てているかたは、何事も初めてのことが多いため心配になることがあるようです。最近は雑誌やインターネットなどで情報を得る手段も増えていますが、だからこそ「育児書どおりにうまくいかない」といった相談も多く受けれます。」

—三世代同居・近居支援事業についてはどうお考えですか？—
「子どもを見守る眼が増えるのが理想的ですね。子どもは「地域の宝」でもありますから、他の機関も含めてみんなで育てたいですね。」

—子育てをしているかたにアドバイスをお願ひします。

「子どもにはそれぞれ個性があるの、それをどう伸ばしていくかが大切です。何かあれば一人で悩まずなんでもご相談ください。話をするだけで気が楽になり、また子育てにがんばれますよ。」

向笠智子さん
家庭児童相談員の他に学童保育所でも活動している。